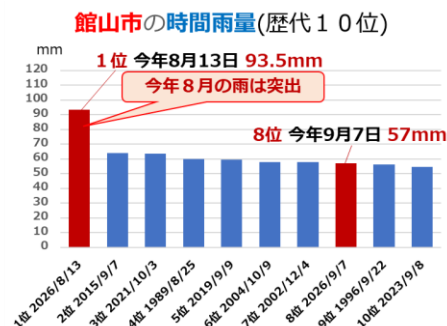
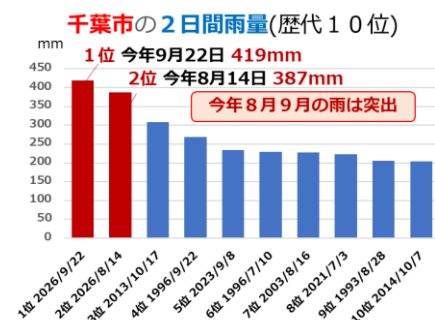
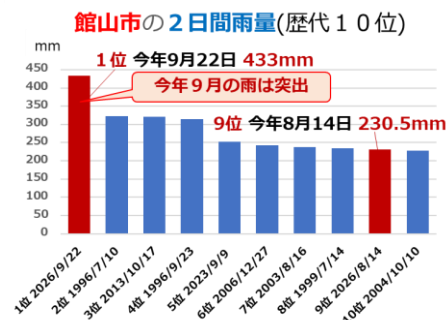


令和 8 年発生 of 千葉連続豪雨

豪雨・被害の状況

令和 8 年 8、9 月発生 of 千葉連続豪雨・・歴代記録を更新

- 令和 8 年 8 月から 9 月にかけて千葉県を襲った連続豪雨・台風等による長雨により、県内各地で of 甚大な被害を受けました。
- 今年の雨は右図に示すとおり、観測史上最大値を記録しただけでなく、歴代に無いような「異常突出」の傾向を示し、このことがこれまで経験したことのない災害の発生原因ともなっています。
- なお、報道の陰に隠れていますが、今年の 8 月中旬以降の長雨は、稲刈りの障害となり、秋冬作物の作付け等にも大きく影響し、農家を悩ませています。

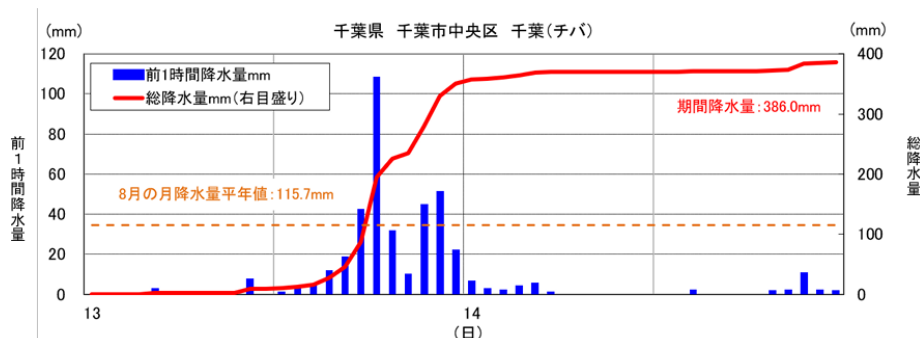


令和 8 年 8 月千葉豪雨 (8 月 13 日～14 日)

- 強い上空の寒気と、千島の東の高気圧の縁を回る暖かく湿った空気が日本列島に流れ込み、千葉県上空に積乱雲が次々と発生し、同じ場所に雨雲が居座る形となりました。【線状降水帯連続発生】
- 千葉市では、14 日 AM7 時までの 24 時間降水量が 367.0mm に達し、観測史上 1 位を記録しましたが、これは 8 月の平均降水量の 3 倍超という桁違いの猛烈な雨となりました。
- 都市型水害 (内水氾濫) では下水道や中小河川の排水能力が追いつかず、各地で内水氾濫が発生し、道路の冠水も相次ぎ、千葉市だけでも約 2,500 台の車が水没・故障して放置されるなど深刻な交通障害が発生しました。
- 千葉県の被害状況としては、死者 13 人、行方不明者 1 人、住宅被害 (全半壊 2,467 棟、床上・床下浸水 3,753 棟) となっています。(9/3 時点)

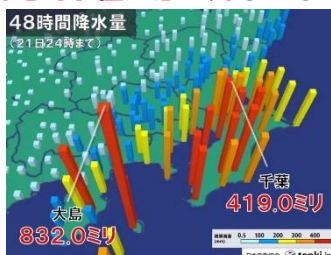


- マンションの地下電気設備や病院地下が浸水し、停電や断水が長期化し、又高速道路の法面崩落や鉄道の運休も発生しました。
 - 人的被害や冠水、停電、避難困難等の話題が注目されましたが、農業関係被害も甚大でした。
- 農林水産業への被害 (9/29 時点)
- ・ 農地・農業用施設 約 68 億 8,900 万円 (内水路 13 億、揚水機 33 億、ため池 3 億)
 - ・ 農作物等約 7 億 3,000 万円
 - ・ 水産物・施設約 1 億 300 万円
 - ・ 生産流通施設 2 億 8,900 万円
 - 合計 約 82 億 8 千万円



令和 8 年 1 0 月豪雨（1 0 月 2 0 日～2 1 日）

●**連続台風や秋雨前線の影響**により、発達した雨雲が長時間停滞し**各地で水位が急上昇**しました。



●**氾濫による深刻な被害**が発生し、住宅地が再浸水に見舞われるなど、8月の被災地やその周辺地域で重ねて家屋浸水やインフラの二次被害がもたらされました

●佐倉市を流れる**高崎川の氾濫**は注目を浴びましたが、**県内各地でも多くの内外水氾濫が発生し、土砂崩れによる人・家・施設や鉄道道路等の被害も甚大**でした。

●あまりニュースにはなりませんが、**富津市金谷地先の高さ約60m（ビル20階相当）の急峻な斜面が崩落し、現在国道127号の通行止めが続いています。**斜面の上部に残る土砂や、破損した落石防止ネットを安全に撤去するため、**世界ギネス記録の超大型ビル解体機が投入され、最大65mのロングブームを使って、復旧を急いでいます**



●**千葉県の計画排水基準**は、実は**他県と比べて非常に厳しい数値**なのです。

●**他県の多くの自治体では一般的な都市計画や下水道整備で5～10年確率（雨量）を採用することが多い中、千葉県**の宅地開発等の雨水調整池計画では**50年確率（238mm/日）という非常に厳しい年超過確率を採用**していますその理由としては

- ①海に囲まれた半島状の地形で、日本に上陸・接近する台風や低気圧の直撃を受けやすい
- ②全国一平均標高の低い千葉特有の、**水が溜まりやすく逃げ場がない（内水氾濫が起きやすい）低地が多数**
- ③中小河川の流下能力が十分でないエリアも多く、**少しの雨であっても排水遅延による浸水リスクが高い**等によるものですが、**今年はそれを遙かに超える雨量であり、このことは今後の治水・施設管理・避難対策等の再考材料ともなること**でしょう。



●**印旛沼は、周囲の地形や歴史的経緯から「利根川」と「東京湾（花見川）」の2方向へ排水するシステムが構築**されています。

① **基本は「利根川」への自然流下およびポンプ排水**

水が少ない時期は、自然の傾斜を利用して利根川へ排水されます。また、必要に応じて「印旛機場」などのポンプ施設を稼働させ、利根川へ水を押し出します。

② **水位が下がらない場合は「花見川（東京湾）」へ強制排水**
台風や集中豪雨などにより利根川の水位も高く、利根川側へ十分に流せない場合や、**印旛沼の水位が危険な高さまで上昇した場合**は、西印旛沼の端にある「大和田機場（大和田排水機場）」を稼働させ、印旛放水路（通称・花見川）を通じて、幕張ベイタウンのある南側の東京湾へと水を強制的に排水します。

●9月22日頃記録的な大雨により、印旛沼周辺の水位が急激に上昇し、水圧や越水などによって**北印旛沼周辺やその接続水路などの計4か所で堤防が決壊**しました。施設を管理する「水資源機構」の管理下となって以降、**印旛沼で堤防が決壊したのは初めての事態**でした。



●9月豪雨時のポンプ排水はフル稼働で合計 212m³/s でしたが、押し寄せた流域からの最大流入量は 400～500m³/s を超えていたと推定され、排水能力を遙かに超える水量が沼に流れ込み、広域的な冠水被害をもたらす要因となりました。